

# ピアノ学習への課題

——調査に現れた保護者の意識と役割——

末 永 雅 子

## The Problem for Learning Piano

——A Questionnaire Survey of Guardian's Attitude and Their Role——

Masako SUENAGA

**Key words** : ピアノ学習 piano learning, 習い事 lessons out of school, 練習 practice, 生涯学習 lifetime learning

### I. はじめに

現代は、子どもの教育に対する情報が溢れ、保護者の習い事への関心は高い。子どもの習い事は多様化し、低年齢化の傾向が強くなっている。特に、音楽系の習い事では、早期教育の有効性が強く言われており、0歳から生徒募集する音楽教室も少なくない。早期教育への過熱には、少子化による子ども1人あたりの教育投資額の増加と、自ら偏差値世代である保護者が、子育ての手応えを目に見える成果に求める<sup>1)</sup>ことが背景にあるといわれている。

習い事の中でもピアノの人気は高い。ピアノ学習の成果発表の場として、子ども対象のピアノコンクール開催は各地で盛んである。しかし、いずれのコンクールも小学校低学年の参加者は多いが、小学校高学年から減少し、中学生、高校生の参加者は非常に少ないというのが一般的な傾向であり、これはピアノ学習人口が学年の上昇とともに減少している現状を示している。就学前の早い時期からピアノ学習を始めても継続は難しく、多くの子どもが小学生のうちに辞めてしまうことは、ピアノ指導者も捉えている実態である。

平成20年8月に文部科学省が発表した「子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告」<sup>2)</sup>の分析においても同様の状況がみられる。

平成19年に小中学生が指導を受けた習い事の種類の

ピアノ29.0%で、水泳の27.0%、習字の22.8%を抜いて1位となっている。また、29.4%の小中学生女子が「1番好きな習い事」に「ピアノ」を1番に挙げている。

しかし、習い事をしている小学生の割合は、平成5年から平成19年の経年調査において、76.9%から72.5%と4.4ポイント低下している。特に、種類別では外国語会話や体育・スポーツ関係の増加に対して、音楽関係が63.7%から51.5%と減少が著しい。これには現代の子どもの学習活動の状況が深く関わっていると考えられる。

文部科学省の調査報告によると、平成19年の小中学生の通塾回数は、ひと月平均9.0回となっており、学年が上がるにつれて進学準備のために通塾率が増加し、1日あたりの指導時間も長くなる傾向にある。学習塾から帰宅する時刻は、22時以降が23.0%、21時台が20.0%と多く、やはり学年の上昇とともに帰宅時間も遅くなっている。6割前後の保護者が「学校だけでの学習に対する不安」や「学歴重視の社会風潮」を塾通いの理由に挙げており、過熱化の要因は、保護者の公教育への不安や不信感が増したことが背景にあると考えられている。

ピアノの演奏技術は、長時間の練習の積み重ねによって上達する。学習の効果を上げるには、指導者の下で行われる週1回のレッスン以外に、自宅における

ピアノ練習を毎日行うことが必要であるとされている。しかし、子どもの通塾率の増加と習い事の多様化は、自宅で行うピアノ練習時間の確保を難しくしており、このことがピアノ学習を継続できない原因となっているのではないかと考えられる。

ピアノ学習の低年齢化は、「楽器は幼児のうちから手掛けておかなくては大成する見込みがない」<sup>3)</sup> という演奏家になることを前提とした考え方によるものである。しかし、「人間は生きている証として生涯にわたって学習する」という発想に立ち「いかに知るか、いかに為すか、いかに生きるか、いかに共生するか」という学校教育を超えた生涯教育の概念<sup>4)</sup> でピアノ学習を捉え、音楽性（演奏表現力と鑑賞力）を高め音楽を愛好する心情を育て豊かな情操を養うなど音楽面からの人間形成を主な目的<sup>5)</sup> とするならば、幼少期の限られた期間だけではなく、ピアノ学習を長く継続して行うことが望ましい。

ピアノ指導者が、これまでの「教師本位の指導」から「学習者のための学習支援」へと発想を転換し、音楽の楽しみ方、学び方・音楽へのアプローチの仕方を身につけるように支援することによって、「生涯にわたって学習する」という営みを定着させる<sup>6)</sup> ためには、演奏法を教えるだけではなく、家庭環境や保護者の意識、生徒の生活状況を把握したうえで、「生徒と音楽世界を共有し、生徒の助言者」<sup>7)</sup> となることを目指さなければならない。

この研究では、ピアノ学習者と保護者に対して質問紙による調査を行い、ピアノレッスンや自宅練習における実態や意識を解析することにより、ピアノ学習者のレッスン離れを抑制し、ピアノ愛好者人口の増加を計ることを目的としている。

## Ⅱ. 方 法

### 1. 調査対象および調査時期

広島市及び周辺地域において協力の得られたピアノ指導者の幼児から高校生までのピアノ学習および保護者を対象に、質問紙による調査を行った。

質問紙を配布したうち、合計159人から回答が得られた。そのうち無効回答を除いた有効回答数は156であり、有効回答率は98%であった。

調査時期は、平成20年6月上旬から7月上旬である。

### 2. 調査方法

質問紙は表1に示すように、ピアノ学習者の生活習

慣、自宅練習およびレッスンにおける実態を調べるために、詳細な内容の把握を目的に作成した。

調査項目は、①習い事の実施状況と練習環境によるピアノの練習時間への影響に関するもの②ピアノ学習状況と保護者の係わり方に関するもの③レッスン内容に対する満足度と保護者の意識に関するものである。質問紙の形式は選択回答と自由記述によるものであり、無記名自記式質問紙法を原則とした。

質問紙の配布は、担当するピアノ指導者によりレッスン時にピアノ学習者および保護者へ直接配布され、自宅にて回答後、次のレッスンの際にピアノ指導者によって回収された。回収の際には、内容が見られないような措置を施した。

表1 ピアノ学習者への調査票

学 年	幼稚園 小学校・中学・高校 ( ) 年
性 別	男・女
ピアノ歴	( ) 年

### 1. 習い事の現状とピアノの練習時間について

①現在、どんな習い事に通っていますか。ピアノレッスン、学習塾等も含め、すべてお答えください。その中で、どの習い事が大切だと考えていますか。差し支えなければ、優先順位をつけてください。

習い事	回数	時間(分)	順位

②平均的な一週間のスケジュールをご記入ください。(ピアノレッスンとピアノ練習、その他の習い事などを含める)

曜日	AM 6	PM 0	PM 6	AM 0
月				
火				
水				
木				
金				
土				
日				

③練習時間はどのように設定していますか。

時間を決めて練習している

特に時間は決めず、できるときに練習している

④平均的な曜日ごとのピアノの練習時間をご記入ください。

- 月 ( ) 分
- 火 ( ) 分
- 水 ( ) 分
- 木 ( ) 分
- 金 ( ) 分
- 土 ( ) 分
- 日 ( ) 分

⑤近隣の住民や家族への配慮のため、自宅での練習時間に制限がありますか。

ある ない

時間に制限があれば、具体的に、ご記入ください。

( ) 時から ( ) 時

⑥ピアノの音について、近隣の住民から苦情を言われたことがありますか。

ある ない

その苦情に対して、どのような対応をされましたか。

⑦現在の自宅でのピアノの練習時間は十分ですか。

はい いいえ

⑧なぜそう思われますか。

⑨さらに学年が進んだ将来、ピアノの練習時間の確保に不安がありますか。

はい いいえ

⑩練習時間について、ピアノの先生から受けたアドバイスはありますか。

⑪自宅での練習には、どんな楽器を使っていますか。

- グランドピアノ アップライトピアノ
- 消音機能付きピアノ 電気ピアノ 電子オルガン
- キーボード その他 ( )

⑫ピアノは家のどこに置かれていますか。

⑬自宅におけるピアノ練習の環境は整っていると思えますか。

思う 思わない

⑭それはなぜですか。

2. 自宅での練習の取り組みについて

①自宅でのピアノ練習は、自分から進んでやっていますか。

自分から進んでやっている

言われてから練習する

②練習のときに、保護者がついていますか。

ひとりで練習する 保護者がついている

③それはなぜですか。

④②で「保護者がそばについている」と答えられた方にお聞きします。

1. どなたがそばについていますか。
2. 子どものそばについて、どんなことを助けていますか。
3. 子どもは、保護者にそばで練習を見てほしいと思っていますか。  
保護者にみてほしい ひとりで練習したい
4. それはなぜですか。

⑤練習するときに、特に気をつけていることは何ですか。(複数回答可)

- 音を正確に弾く リズムを正確に弾く
- テンポを早く弾く 正しい指使いで弾く
- 強弱をつける 両手を合わせて間違えずに弾く
- その他

⑥練習で、特に苦勞していることは何ですか。

(複数回答可)

- 音を正確に読む リズムを正確に読む
- テンポを早く弾く 正しい指使いで弾く
- 強弱をつける 両手を合わせて間違えずに弾く
- その他

⑦1曲につき平均どのくらいの期間、練習をしていますか。( ) 週間

⑧練習をつらいと感じたことはありますか。

はい いいえ

⑨それはなぜですか。どんなときですか。

⑩練習を楽しみと感じたことはありますか。

はい いいえ

⑪それはなぜですか。どんなときですか。

⑫自宅での練習方法について、受けたアドバイスはありますか。

⑬差し支えなければ、家族構成と音楽経験の有無をご記入下さい。(任意)

家族構成	学年・年齢	音楽体験の有無	現在ピアノを習っていますか
		有・無	はい・いいえ
		有・無	はい・いいえ
		有・無	はい・いいえ
		有・無	はい・いいえ

## 3. レッソンの状況について

①一回あたりのレッスンの時間はどのくらいですか。  
( )分

②レッスン時間長さは適当ですか。

適当である 長い 短い

③それはなぜですか。

④レッスンのときに保護者はそばで見えていますか。

保護者がそばで見ている

ひとりでレッスンを受けている

⑤それはなぜですか。

⑥子どもは、保護者にレッスンを見てほしいと思っていますか。

保護者にみてほしい

ひとりでレッスンを受けたい

⑦それはなぜですか。

⑧レッスン内容について、お聞きします。

1. レッソンの進め方は適当ですか。

早い 適当 遅い

2. 先生の説明は、わかりやすいですか。

わかりやすい 普通 わかりにくい

3. 先生の指導は厳しいと感じていますか。

厳しい 普通 優しい

4. 教材や選曲には、満足していますか。

満足 普通 不満

5. 次回レッスンまでの課題の量は適当ですか。

多い 適当 少ない

6. レッソンは楽しいと感じていますか。

楽しい 普通 楽しくない

7. それはなぜですか。

⑨指導する先生へ、希望することをご記入ください。

1. 進め方や指導法について

2. 選ぶ教材や曲について

3. その他

⑩ピアノのレッスンをいつまで続けたいと思っていますか。

それはなぜですか。

⑪将来、ピアノ・音楽を専門とする進路に進みたいと考えていますか。

はい いいえ まだわからない

⑫将来、ピアノ・音楽を専門とする職業に就きたいと考えていますか。

はい いいえ まだわからない

「はい」と答えられた方は、どんな職業に就きたいですか。

ご協力ありがとうございました。

## Ⅲ. 結 果

## 1. 対象者の学年別人数とピアノ学習歴

この調査における対象者156人の性別、学年、ピアノ学習歴は、次のとおりであった。

性別は、男19人(12%)女137人(88%)であり、学年別人数は図1に示したように、幼稚園児20人(13%)小学生115人(74%)中学生16人(10%)高校生5人(3%)であった。

このうち幼稚園年長児から生徒から小学校5年生までの生徒が117人(75%)と多く、中でも小学校5年生が24人(15%)と最も多いが、小学校6年生以降は、急な減少を示している。これは、文部科学省による報告や、コンクール参加者人数からみられる一般的なピアノ学習人数分布と差異はないと思われる。

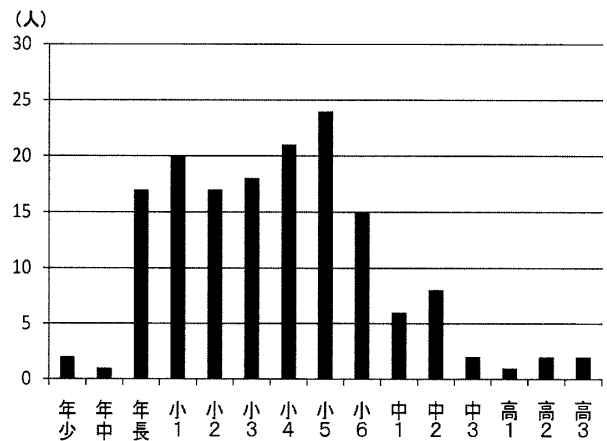


図1 学年別人数

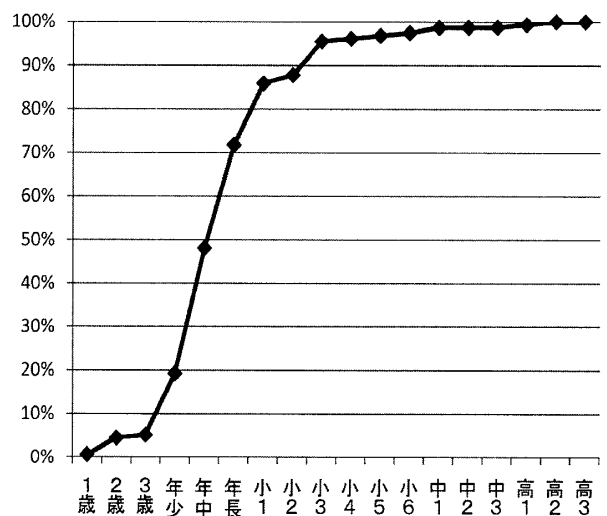


図2 学習開始時期による人数の累積

一方、ピアノ学習を始めた時期は、図2のとおり低年齢化を示している。1歳から3歳までに開始した幼児は8人（5%）、多くのものは幼稚園年少から開始しており、年中児で48%と全体の半数近く、また小学校3年生の時点で96%とほとんどの生徒がすでにピアノレッスンに通っていたことが判明した。

子どもの精神的また肉体的発育から考えてピアノを始めるには、「遅くとも8～9歳までには始めるほうがよい」<sup>8)</sup>という早期音楽教育に関する一般的な常識の浸透を表しているといえる。

2. 子どもの生活状況

(1) 多様化する習い事と塾通い

調査対象者が1週間に通っている習い事の数、図3のとおりである。ピアノしか習っていない子どもは32名（20%）、ピアノを含めて2種類という回答が一番多く58人（36%）、続いて3種類45人（28%）4種類22人（14%）、中には5種類ものならいごとに通っているものが3人（2%）あり、全体で80%がピアノと同時に他の習い事や塾に通っていることがわかった。

ピアノと同時に通っている習い事のうち種目別には、習字41人（26%）水泳40人（26%）塾31人（22%）英語25人（16%）そろばん13人（8%）の順が多い。

また習い事や塾にかける時間は、平均して1週間に3時間12分、小学校高学年になるほど習い事や通塾に費やす時間が長くなっている。一番時間が長い小学6年生は、週に4日の通塾によって17時間30分にも及んでいた。（図4）

(2) 自宅におけるピアノ練習時間

一方、自宅での1週間のピアノ練習日数は、図5、

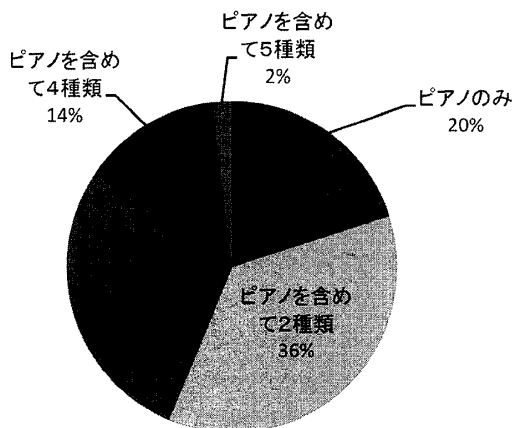


図3 複数の習い事をしている割合

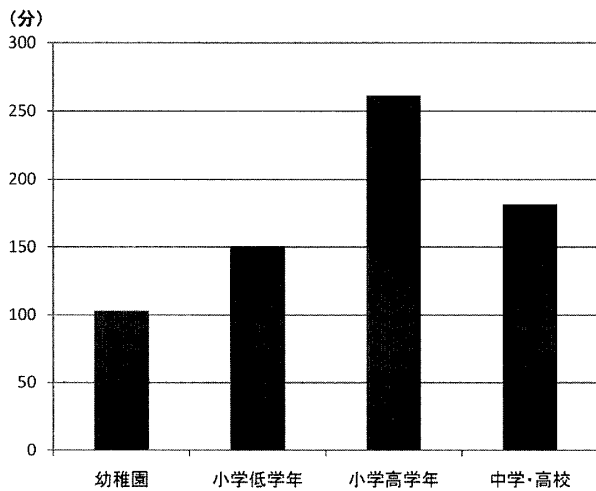


図4 習い事の平均指導時間

図6のとおりである。幼稚園児、小学校低学年では57%という高い割合で毎日のピアノ練習を行っているが、高学年になると毎日練習を実施しているものは39%に減る。また平均練習日数は、幼稚園児では6日であるが、中高校生では4.3日と学年が上がるほど少なくなっている。

また1週間の合計練習時間は、表2の示す結果となった。平均では、幼稚園児1.9時間、小学校低学年

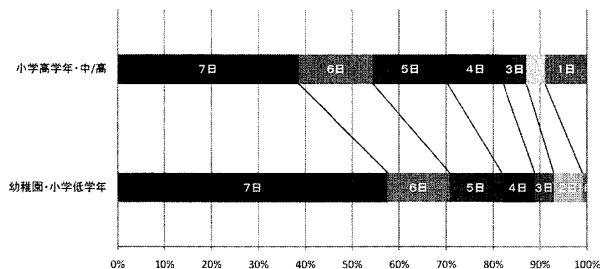


図5 1週間のピアノ練習日数による割合

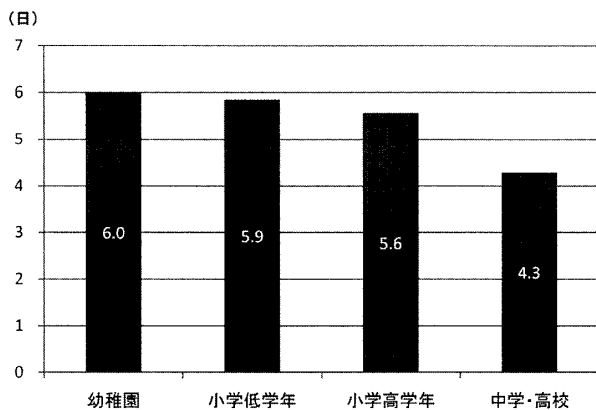


図6 1週間の平均ピアノ練習日数

表2 1週間の合計ピアノ練習時間

	30分 以下	31 ～ 60分	61 ～ 90分	91 ～ 120分	121 ～ 150分	151 ～ 180分	180分 以上
幼稚園	0人	4人	4人	2人	1人	0人	3人
	0.0%	28.6%	28.6%	14.3%	7.1%	0.0%	21.4%
小学低学年	1人	6人	12人	8人	11人	10人	13人
	1.6%	9.8%	19.7%	13.1%	18.0%	16.4%	21.3%
小学高学年	6人	4人	3人	7人	6人	4人	25人
	10.9%	7.3%	5.5%	12.7%	10.9%	7.3%	45.5%
中学・高校	2人	2人	2人	3人	1人	1人	9人
	10.0%	10.0%	10.0%	15.0%	5.0%	5.0%	45.0%

4.1時間を確保しているが、小学校高学年では3.0時間と練習時間が減っている。(図7)特に、高学年では、3時間以上長く練習時間を確保している25人(45%)と、1時間以下の短い練習時間である14人(19%)とは練習量の差が顕著であった。(図8)

(3) 練習環境

自宅での楽器練習には、防音設備などの練習環境が必要である。住宅事情から、周囲の住民や家族への配慮のために練習時間が制限されていると回答した人は、図9のように99人(62%)あり、中には近隣の住民から練習時のピアノの音に対する苦情を受け、トラブルになったという記述もあった。夜間の練習は20時までという家庭が多く、消音ピアノや電子ピアノ、キーボードの使用など工夫をしているが、他の習い事や通塾のため帰宅時間が遅くなる場合には、ピアノ練習時間の確保は難しいと思われる。

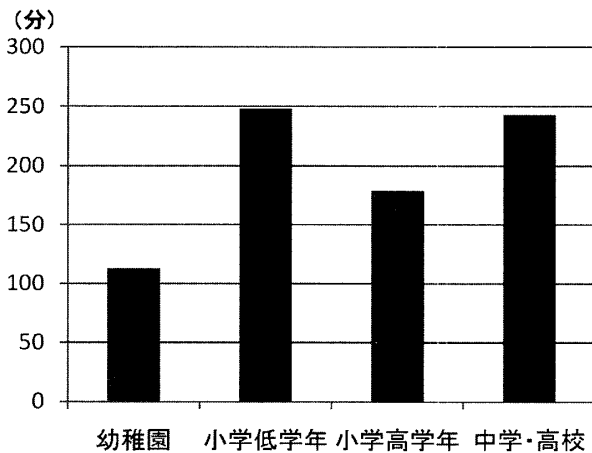


図7 1週間の平均ピアノ練習時間

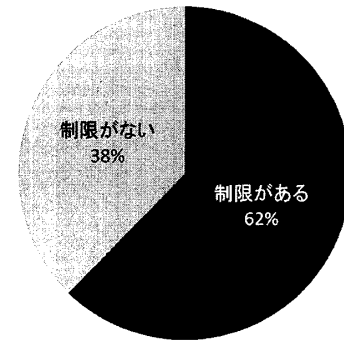


図9 ピアノ練習時間が制限を受ける割合

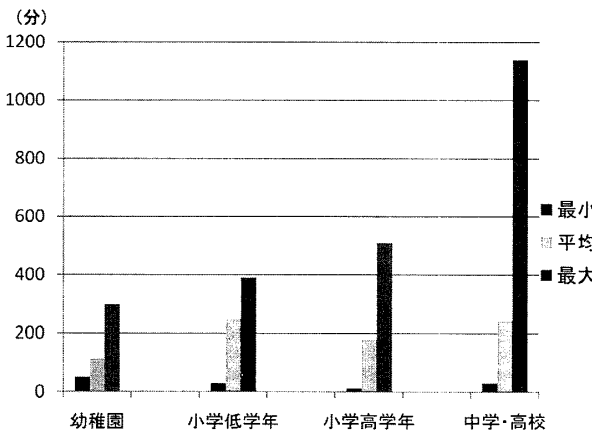


図8 1週間のピアノ練習時間の比較

(4) ピアノ練習時間確保への不安

現在の練習量に対して、十分であるという回答は34人(22%)、その理由は子どもがまだ幼く集中力が保たれない、またはピアノ練習以外のことに時間を使いたいというものである。(図10)

一方、現在の練習量では十分ではないと感じているものは119人(78%)と非常に多かった。その理由は、「あまり上達していないから」という回答が一番多くみられ、学習効果を上げるには、自宅練習時間の十分な確保が必要だという考え方が学習者や保護者に浸透していることがわかる。高学年になるにつれて、今後さらに練習時間の確保が難しくなると考えているものも113人(76%)と多く、(図11)習い事や通塾、練習環境によるピアノ練習時間確保の難しさが、今後のピアノ学習の妨げになるという考えがみられた。

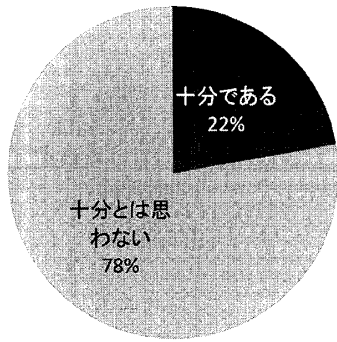


図10 現在のピアノ練習時間に対する満足度

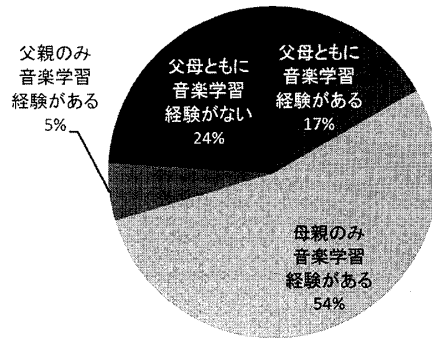


図12 保護者の音楽学習経験

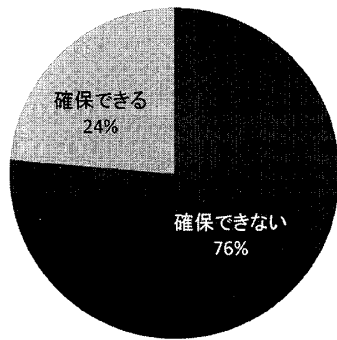


図11 今後、ピアノ練習時間の確保が十分にできるか

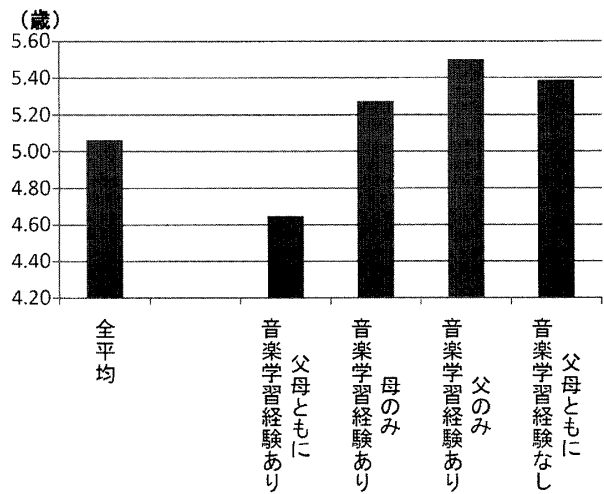


図13 保護者の音楽学習経験別ピアノ学習開始年齢

### 3. 保護者のピアノ学習に対する係わり

#### (1) 保護者の音楽学習経験

保護者のいずれかに音楽学習経験があると答えたのは76%、このうち母親に音楽学習経験があると答えたのは、71%であった。(図12)

保護者の音楽学習経験が、子どものピアノ学習にどのように影響を与えているかを示す結果が図13に現れている。保護者の音楽学習経験の有無による子どものピアノ学習開始年齢は、父母ともに音楽学習経験を持つ家庭では4.65歳となっており、全体の平均5.07歳と比べて早い時期に子どもをピアノレッスンに通わせていることがわかる。保護者自らの音楽学習経験は、早期音楽教育の有効性への期待を高くし、その後のピアノ学習状況にも大きく影響を与えるものと考えられる。

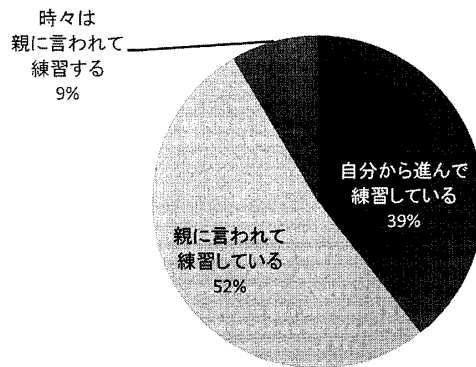


図14 練習への取り組み方

#### (2) 自宅練習における保護者の役割

自宅でのピアノ練習においては、特に在宅する時間の長い母親が大きな役割を果たしている。図14の示すように、小学生のうち自分からすすんでピアノ練習を行っているのは、56人(39%)であった。「自分からするときもあるが親に言われてするときもある」と答

えたものを含め86人(61%)が、母親に促されて練習をしていることがわかる。

また「家族のうち誰が練習につきそうか」という設問には、母親がつきそうという回答が68人(88%)と一番多く(図15)、そのうち47人(69%)が音楽学習経験を持っている母親であった。

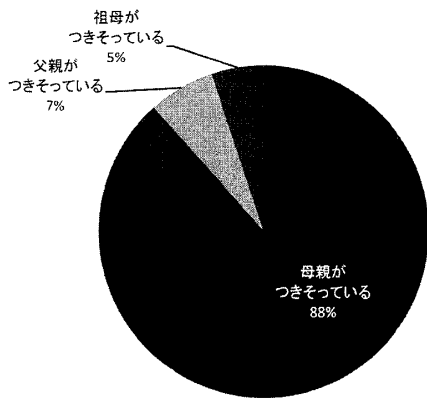


図15 ピアノ練習につきそう家族

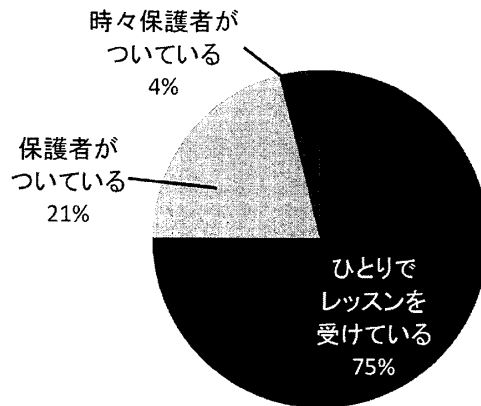


図17 レッスンにつきそう保護者の割合

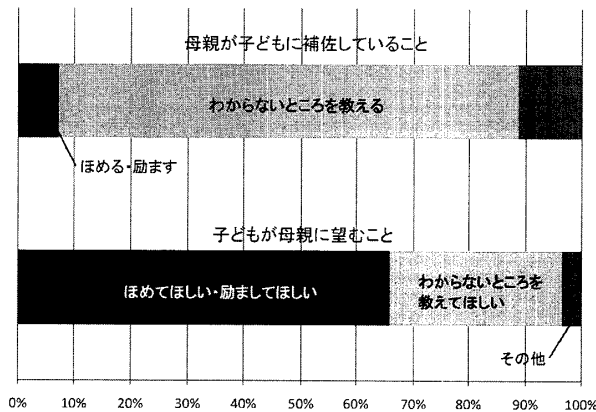


図16 ピアノ練習における母親の補佐と子供の望み

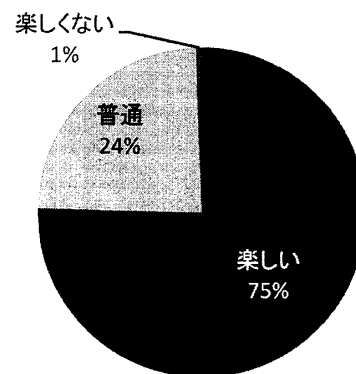


図18 レッソンは楽しいか

自宅での練習時に「母親にそばにいてみてほしい」と希望している子どもは65%である。その理由として、「そばにいてほめてほしい、励ましてほしいから」が66%、「教えてほしい」という回答は、31%である。それに対し母親の回答は、練習につきそって「譜読みを手伝う」「音やリズム、指使いなどの間違いを指摘する」と回答した母親が80人（82%）と一番多く、「子どもをほめる、励ます」という回答は7名（7%）と極端に少ない。（図16）

このことから音楽経験を持つ母親ほど子どものピアノ練習に熱心に付き添い、わからないところや間違いを教えピアノ学習を補佐しているが、「ほめて励ましてほしい」という子どもの要望に対して、母親の意識には大きな差異があることがわかる。

### (3) レッスンに対する満足度

ひとりでレッスンを受けている子どもは、118人（75%）と多い。（図17）これには仕事を持っていて忙

しい、または他に幼い子どもがいるために付き添えないなどという保護者の都合もあるが、音楽教室やピアノ指導者の方針により、生徒がひとりでレッスンを受けるように決められている場合も多い。

「レッスンは楽しい」と答えたのは116人（75%）で、「普通」という回答は37人（24%）、「楽しくない」は1人で、理由は「難しいから」であった。（図18）また、ほとんどの回答が、「レッスンの進め方は適当」であり、「先生の説明はわかりやすく、指導は優しい」「使う教材には満足」しており「課題の量も適当である」という回答であり、概ねレッスンの内容に満足しているという結果であった。

### (4) 生涯学習としての保護者の意識

将来、「ピアノ・音楽を専門に勉強したい」という回答は少なく、67%が「まだわからない」と答えている。（図19）

しかし「ピアノのレッスンをいつまで続けたいと



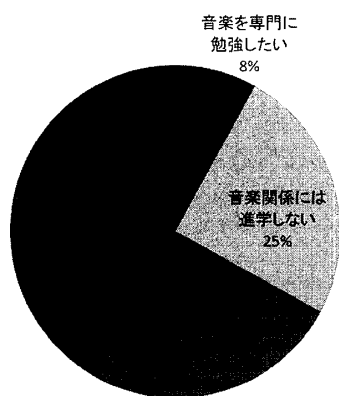


図19 進路希望

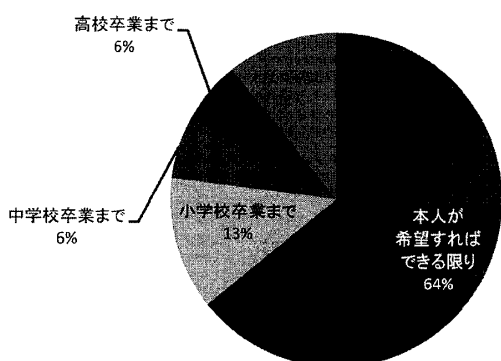


図20 いつまでピアノ学習を続けたいか

思っていますか」という設問には「本人が希望すれば出来る限り長くピアノレッスンを続けさせたい」と回答した保護者が95人（64%）と多く、小学校卒業まで、あるいは中学、高校卒業までと学習期間を限定した保護者25%を大きく上回った。（図20）

「いずれはピアノを辞める」という回答には、「忙しくなり練習時間がなくなると思うので」という理由が一番多く、中には「楽譜が読めればそれで十分だから」という記述もあった。一方、「長く続けさせたい」という理由には、「心が豊かになり、情操面が伸ばせる」「達成感を得ることによって自信に繋がる」「趣味として音楽を生活の一部にしてほしい」などといった回答が多い。

生涯学習活動として音楽学習を捉えている保護者と短期間の音楽学習で十分と考えている保護者の間には大きな意識の差があるとみられる。

#### IV. 考 察

##### 1. ピアノ学習に対する保護者の意識

調査によって、ピアノ学習開始の低年齢化が示され

た。調査対象者のうちのほぼ半数が幼稚園年中児のうちに、またほとんどのピアノ学習者が小学校3年生ですでにピアノ学習を開始していたことがわかった。これは早期音楽教育の有効性に対する保護者の意識が大きく影響しており、保護者の音楽学習経験は、ピアノ学習の低年齢化を進めている。

また、早い時期からピアノを習わせている家庭では、他の習い事にも熱心である。特に、体力をつけるための水泳教室や国際化という流れを背景とする英語会話教室などが、人気の習い事として挙げられており、多くの幼児がピアノと同時に複数の習い事に通っている。しかし、習い事の数の多さと費やす時間の長さは、必ずしも自宅でのピアノ練習の減少の原因とはなっていない。起床時間、就寝時間、放課後や休日の過ごし方など生活習慣についての調査から、ピアノの他にも英語や水泳と熱心に習い事に通っている家庭ほど、毎日のピアノ練習を欠かさず、十分な練習時間を確保していることが判明した。

幼稚園児や小学校低学年が、多くの習い事に通い長い時間を費やしたとしても、その内容は自宅学習の必要のないものが多く、自宅でのピアノ練習時間の確保にはあまり影響はないと考えられる。しかし高学年になり、進学準備のために学習塾に通い始めると、帰宅時間が遅い上に自宅学習も必要となり、ピアノ練習時間の確保は難しくなる。この調査が6月から7月に行われているため、小学5年生のピアノ学習者人数が一番多く、小学6年生で急に減少しているという結果が出ているが、小学5年生の秋以降に学習塾の1週間の授業日数と時間が増加することを考えれば、練習時間不足のため学習効果が上がらないことを理由に、この時期にピアノレッスンを辞める生徒が多くなることが予想される。

早期教育への保護者の熱意は、子ども対象のコンクールにおける幼児や小学校低学年の参加者の増加にもみられるように、学習の即効性や目に見える効果への期待となりがちである。一方、期待する学習効果が得られないと感じたときには、学習の限界と捉えすぐに見切りをつける傾向に陥りやすい。

しかし、保護者がピアノ学習の目的を演奏技術の進歩だけでなく、調査紙による記述のように「心を豊かにし、情操面を伸ばしたい」「達成感を得ることによって自信を持たせたい」「趣味として音楽を生活の一部して楽しんでほしい」とするならば、現時点で受験勉強が優先されるとしてもそれぞれに合ったペース

と方法でピアノ学習を継続し、日常生活をより豊かに過ごすことができるのではないかと考える。

## 2. 自宅練習における母親の役割

自宅でのピアノ練習時間の確保には、母親の果たす役割が大きい。母親が毎日決まった時間に子どもに声をかけ、ピアノの練習を促すことにより、毎日の練習を習慣づけている。毎日練習する習慣が身についている幼児や小学校低学年の子どもは、1日の練習量が短いにもかかわらず、高学年の学習者よりも1週間の練習時間合計が多くなっている。

また多くの母親が自ら音楽学習経験を持っており、練習内容にも深く関わっていることがわかった。母親は自宅練習に付き添い、わからない音を教え、音やリズム、指使いの間違いを指摘することによって、子どもの練習を補佐している。自宅でのピアノ学習における母親の協力は必要ではあるが、行き過ぎれば、子どもが読譜力を身につけることができなくなる原因になる可能性もある。

ピアノを始めたばかりの頃には、学習曲も短く単純なものが多い。楽譜が簡単なうちは、練習時に母親がそばについて読譜を手伝い、間違いを直して正しく弾かせることができる。しかしピアノ学習期間が長くなれば、学習曲の難易度が上がり、母親が対応できなくなる場合もある。また反抗期の子どもが、母親の補佐を拒むこともある。読譜力が身につけていない子どもは、母親の補佐なしでは上達に時間がかかり、練習時間を多く費やさなければならない。子どもが新しい曲や難しい曲を弾くことを嫌がるのには、読譜力が弱いことが原因になっている場合が多い。このことがピアノ練習を苦痛にし、ピアノ学習を中断する原因にもなっている。

短い時間で練習の効果を上げ、達成感を感じさせるためには、導入期に基礎的な読譜力を子どもに身につけさせることが必要であり、これはピアノ指導者の務めであると考えられる。

母親の役目は、子どもにピアノを教えることだけではない。多くの子どもが「練習時に母親にそばにいてほめてほしい、励ましてほしい」と記述している。母親は、子どもがピアノを演奏する姿を見ることによって、子どもの成長を確認し、子どもは母親にほめてもらうことによって自分が認められていると実感することができる。ほめて励ますことは、子どもの心の成長に欠かせない母親の重要な役目である。母親と子ども

はピアノ学習経験を共有することによって、コミュニケーションを深めることができると考える。

## 3. ピアノ指導者への課題

練習時間が十分でないと生徒や保護者が感じる理由の多くは、「上達していないから」「曲が仕上がらないから」「発表会やコンクールに間に合わないから」という練習の成果が現れていないという不満からくるものであった。

また「練習がつらいと感じるのは、どんな時ですか」という設問に、ほとんどの子どもが「曲が難しく、うまく弾けないとき」「練習しても思い通りに弾けないとき」と記述している。反対に「練習が楽しいと感じるのは、どんな時ですか」という設問には、「出来なかったところが、弾けるようになったとき」「練習したら上手になったとき」と回答している。子どもは練習の成果が現れ、達成感を得たときに、学習することの喜びを知るのである。

学習塾や自宅勉強に費やす時間の増加や、防音設備が整っていない練習環境が原因となって、ピアノの練習時間が制限されるという現状は、今後も避けられない。

自宅でのピアノ練習が限られた短い時間であっても、練習の効率を上げることによって、子どもに達成感を感じさせることができれば、ピアノ学習に楽しみが見いだせるにちがいない。ピアノ指導者に求められていることは、導入期のうちに子どもに基礎的な読譜力を身につけさせること、また、それぞれの学習状態に合わせて適切な課題を選択し、具体的な練習方法を示すことであると考えられる。

## V. ま と め

今回の調査で、ピアノ学習の開始時や自宅でのピアノ練習、子どもの進路に関して、保護者の意識が大きく影響していることがわかった。特に、自宅練習における母親の役割は大きく、練習時間の管理から練習内容にまで深く関わっている。

子どもが現代の学習活動の中で、ピアノ学習を長期間継続していくためには、保護者が生涯学習としての意識を持つこと、またピアノ指導者がピアノ以外の学習活動や生活の状況にも気を配り、それぞれの子どもに合った細やかな指導を行っていくことが必要であると考えられる。

## 文 献

- 1) 汐見稔幸：このままでいいのか超早期教育, 58-59 (1993), 大月書店, 東京
- 2) 文部科学省ホームページ (<http://www.mext.go.jp>)：子どもの学校外での学習活動に関する実態調査報告, (2008)
- 3) 高萩保治・中嶋恒雄：音楽の生涯学習 理論と実際, 223 (2000), 玉川大学出版部, 東京
- 4) 高萩保治・中嶋恒雄：音楽の生涯学習 理論と実際, 2 (2000), 玉川大学出版部, 東京
- 5) 遠藤三郎：生涯学習ピアノのすすめ, 27 (1992), 春秋社, 東京
- 6) 高萩保治・中嶋恒雄：音楽の生涯学習 理論と実際, 2-3 (2000), 玉川大学出版部, 東京
- 7) 高萩保治・中嶋恒雄：音楽の生涯学習 理論と実際, 179 (2000), 玉川大学出版部, 東京
- 8) 伊能美智子：ピアノ学習の基礎, 17 (1968), 春秋社, 東京
- 9) 小西行郎：早期教育と脳, (2004) 光文社, 東京
- 10) 海野雅路：ようこそ音楽へ 生涯学習と音楽実践のひけつ, (1994) 春秋社, 東京
- 11) 久本信子, 三笠友紀恵, 金築優子：子どもの習い事の現状：性, 年齢, 居住地域との関連, 夙川学院短期大学研究紀要, 27, 29-51 (2003)

## Summary

Recently, the guardians are highly concerned about their children's lessons outside of school. Many Japanese children start to have various lessons in their infancy. Piano lessons are still the most popular type of lesson, although the number of children who learn music is decreasing and the number of those who learn foreign languages or sports is increasing. However children in the upper grades of elementary school tend to quit learning to play the piano. They are getting older and fewer are continuing to play the piano, because those who have to go to cram school find difficulty in using enough time to practice the piano.

The merit of learning to play musical instruments is that children can have confidence through music and that music enriches their life above all. That is why we encourage people to keep practicing the piano as long as possible. In order to know what piano teachers can do for that, it is important to investigate the actual circumstance of children's lives and guardians' thoughts. In this study, I asked children who learn to play the piano and their guardians living in Hiroshima City and the surrounding area a questionnaire from the beginning of June to the end of July 2008. The children range from infants to high school students.

What the questionnaire makes clear is that guardians play an important role for children to continue to play the piano. Those who are eager to make their children learn to play the piano tend to let them start learning music earlier, help and lead them more while practicing at home.

The following result was also obtained: The rate of children who want to be praised by guardians is much higher than the rate of guardians who actually intend to praise their children. This means that guardians should praise more often their children.

Through this study, I would like to state that piano teachers could encourage the guardians to play their role, as well as care about each pupil's practical piano practice time or teach them efficiently. It would help in increasing the number of people who continue to play the piano as lifetime learning.